

南東北審判トレセン（2024年7月13・14日）実施報告

2024年7月13日（土）～7月14日（日）に本県開催の南東北審判トレセンが実施されました。同トレセンでは福島・山形・宮城の3県から選ばれた1名ずつの2級審判員がメンバーとなり、各県での研修を行っていきます。指導は基本的に開催県の審判指導者が担当することになっており、本県の審判指導者の研修会も兼ねて実施されました（写真1：13日（土）・写真2：14日（日））。

写真1



写真2



7月13日（土）は、撮影された試合の映像の分析を指導者は行いました。そして、試合を担当した審判員に対して、映像も用いながら良かった点と改善点をフィードバックしました（写真3・4）。指導者と審判員が目線を共有し、次の試合でチャレンジする課題を明確にします。課題を一つ一つ乗り越えながら、審判員として成長することが期待されます。また、座学研修として「SPA/DOGSO・コンタクトプレー」について担当インストラクターが用意した映像を含んだ資料に基づきながら、審判員とのディスカッションや審判員同士のディスカッションが行われました（写真5・6）。

写真3



写真4



写真5



写真6



7月14日（日）は、3名の審判員に割り振られた「サッカーはなぜ手が使えないのか？」（写真7）、「サッカーはなぜ11人なのか？」（写真8）、「サッカーはなぜ90分間なのか？」（写真9）という3つのテーマについてそれぞれが調べた結果のプレゼンを行いました。サッカー競技、競技規則についての理解が深まると同時に、3名の個性が発揮される機会となりました。その後、「マネジメント」について、担当インストラクターの促しの下、指導者チームと審判員チームに分かれ、互いに意見を出し合いながら、マネジメントの段階についてまとめて発表し、理解を深めました（写真10～13）。

以上、2日間の充実した研修会が実施されました。

写真 7



写真 8



写真 9



審判員コメント

池田知広 2級審判員（福島 FA）

今年度の南東北 RTC では「説得力のある判定のための動きとポジショニング」をテーマとして活動をスタートしました。自分たちの試合の映像分析を行い、試合の中のある場面でどういった動きをすべきだったのか、自分だったらどうするのか他の審判員とディスカッションを交えて考える非常に良い機会となりました。また、インストラクターの方から「SPA と DOGSO の事象分析」ならびに「マネジメント」の座学を受けさせていただきました。SPA や DOGSO については試合の中では瞬時に判断が求められるため、判断基準や考慮事項をよく整理しておかなければならないと感じました。また、マネジメントについては段階があり、試合の中でどう作り上げていくのかを考える重要性を学びました。

今回学んだことや感じたことを今後の自分のレフェリングに生かしていきたいと思いました。

写真 10



写真 11



写真 12



写真 13



インストラクターコメント

茂木裕志 3級インストラクター（福島 FA）

今回の研修では、「事象分析」「マネジメント」をテーマについて研修しました。事象の映像を見ながら事象分析において事実を確認し、それに対する考慮事項などについて審判員とインストラクターでディスカッションしながら実施しました。

この研修を通して審判員とインストラクターの様々な視点から意見を交換することができとても充実した2日間になりました。今回プレゼンテーション技術や審判員の考えを導き方など沢山勉強になりました。これからのインストラクター活動に活かしていきたいと思います。